

---

# 主に俺の妄想で出来る主人公死亡のオリジナル小説 短編集

花林糖

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

主に俺の妄想で出来る主人公死亡のオリジナル小説 短編集

### 【Nコード】

N8221T

### 【作者名】

花林糖

### 【あらすじ】

妄想が爆発して死にそうなので書きました。駄文ばかりですが、気にしないでバッドなエンドを見てくれると有難いです。

これは、ただ単に自分が思いついた小説を、書き殴りました。悩みに悩んでいっぱい書くから連載にしよう！ってことで連載になります。一つ小説を書いているので、気まぐれに書いていきます。

こっちではオリジナル短編集小説集として読んで下さい。たまに東方や、東方、ひぐらしなどを使うかもしれません。ついでにほとんど

ヤンデレか、主人公死亡とかです。薬物であればばばってのもありますよー！拷問・・・いれよっかなあ。

グロかったり、ヤンデレっぽかったり、ミサイルが飛んできたり、キモかったり、殴られたりします。そこんとこ注意頼みます。

第一回目・・・悪党と正義（前書き）

記念すべき暇だから書いた第一話。きもいからご注意を！

## 第一回目・・・悪党と正義

「はぁ・・・これで俺は、死ぬしかないっつー展開になったな。まったく疲れた人生だったぜ」

目の前で腹から血を流しながら悪党がそう呟く

「こ、これが・・・俺の、最後の置き、土産だ。グフッ・・・お前が死ぬば、す・・・救われるのさ・・・地、獄で、まって・・・るう・・・」

そうやってまた目の前の悪党よりも悪党なヤツが言いながら消えていく

「さて、あのクソ野郎も死んだ。あとは俺が死んでハッピーエンド。これで終わりだ」

悪党が私に言う。あんなに憎んでいたのに今ではとても悲しい

「なぜ・・・あなたは悪党なのに私を助けたのですか！身代わりになったのですか！私は、死ぬ覚悟くらい出来ていた！」

「だまりな。じゃあ、俺の嫌いな物を三つ教えてやる」

「そんな物・・・聞いてどうする！」

「一つ。誰かが俺のせいで死ぬこと。さっきは俺のせいでお前が死ぬところだったから助けてやった」

私の話なぞ聞かずに続ける

「二つ。効率が悪いこと。これは譲れねえ。俺の方が傷を負っていた。俺が身代わりになるのは同然のことだ。そして俺が死ぬのもまた同じ事」

やめてくれ。私は歯が立たなかった・・・お前しか戦える物がいなかったから傷を負っていたのは当然のことだろ！

「三つ。惚れた奴を傷つけさせるやつ。そいつは全員ぶつ殺す」

もう、やめてくれ・・・！こんな場面で！こんな場所で！お前は悪党、私は正義。結ばれる訳もないのに・・・！お前は悪党じゃないのに・・・！

「そついでことだ。悪党な俺が正義なお前に惚れてた。最後だから言える事だけだな」

「やめてくれ・・・！お願いだから、やめてくれ！」

私は二重の意味をかけてやめてくれと叫ぶ

「さて、あばよ。俺はやっぱり腐っても悪党。どーせ、死ぬなら派手に死にてえ。そんな舞台を用意してくれた野郎もいるんだ。こりゃ死ななきゃそんだろ？だから、そんなに泣くな。お前は正義で俺を倒したかった。これが最高のハッピーエンドと言わずしてなんと言う。そうだろ？」

私はやめてくれと叫ぶ。悪党じゃない、私を助けてくれたヒーローだ

「おい、だから本当に泣くなつて。やめてくれよホント。俺も出てきちまつたじゃねえか」

私はやめてくれと叫ぶ。死なないでと

「ごめん・・・！本当にごめんよ・・・！いくらやめてくれと言われたって俺はすでに世界の人全員の命を背負っている。一人一人と世界中の人間。どちらが重いかって言われたら、だろ？」

「やめてくれ・・・！もういい！みんなが死んでも良い！だから、死な」

いつの間にかすでに置き土産の前に背を向け立っていた

「あは。最後まで聞けなくてごめん。でも死んでも会えるさ。悪党と正義は必ず、つてな？」

ブツシャア

それを最後に、私の隣には悪党の腕や足が。私の体には悪党の血や肉片が。

「うわあああああああああ！！！！」

泣きに泣いた。もう一生涙が出ないだろうと言うほど泣いた。

「ひっくうっく、うわあああああああああ！！！！」

そして心に決めた。私は生涯好きな人は作らない。こんなに悲しい思いをするのならば

こうして世界は救われた。たった一人、悪党と虐げられ恨まれたヤツが死んだだけ。誰からもわかり合ってももらえず、世界最悪の悪党が死んで、世界最強の悪党も死んで、世界は平和に包まれた。

世界最強の悪党は、誰からも恨まれなかった。まず、悪党と知って  
いる人が少なかったからだ。

世界最悪の悪党は、誰からにも死んで良かった、平和になったとい  
われた。

その世界最悪の墓は作られなかった。世界の偉い奴らに死体を拾われ、世界中の奴らに見世物にされ、蹴られ、石をぶつけられ、販されたまま埋葬も火葬もされず適当な場所に適当に放置された。

（何年後）

「……すまない。死体は一つも見つからなかった。それにこんな場所に墓を建ててすまない。ははっ。これを言うのは何度目かな。ことごとく破壊されてしまったからなあ……」

真実を知るの一人だけ。誰もこの悪党が良い奴だったとは誰も知り得ない。知ったとしても、嘘として流されてしまうであろう

「ここなら誰も来ないはずだ。安らかに眠ってくれ」

ここにいる少女は目を瞑り瞑想した。きっと今までの事を思い出しているであろう

「……………ごめんね……………やっぱり無理だわ……」

昔のように泣き叫ばない。泣き叫べない。静かに、静かに涙を流す  
「どうして、誰も信じてくれないのかしら・・・どうして、どうしてなのぉ・・・」

墓にすがり突きながら泣く。死体も消えた。もう少女には自分で作った墓でしか、あの人を確認できない。すでに死体もないので確認出来ないが、記憶の中のあの人がいたという墓を作ることしかできない

「ひつく・・・ぐす・・・」

また今日も泣く・・・あの人を思いながら・・・。

世界は未だに世界最悪の悪党の名を忘れてはいない。外にでて聞けば、罵倒される。世界を助けたのに・・・。

そして今日もまた墓がいつの間にか壊されている。

新しい墓を作るために少女はまた旅に出る。涙を永遠にながしながら・・・。

END

## 第一回目・・・悪党と正義（後書き）

なんだかキモイですね。でも楽しんでいただけたら嬉しいです。

ついでにこの子供には名前はありません。適当につけて、もう一度読み直すと つまらないですね。さらに泣ける話として作ったのに作った本人が泣けないってどうゆうことですかぁ!?

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8221t/>

---

主に俺の妄想で出来る主人公死亡のオリジナル小説 短編集

2011年10月9日00時22分発行